



大津市浜町1-38
滋賀銀行従業員組合
TEL 077-525-5232
TEL 077-521-2775
FAX 077-525-5232
http://www.biwa.ne.jp/~ffs/
E-Mail: ffs@biwa.ne.jp



労使対等の 正常化協定で自信

泣く泣く労組に行く仲間を
目の当たりにして、自分の
出来ることは何なのかと考
え、1971年24歳の時、
本部役員に立候補しました。

新入行員のみなさん ご入行おめでとうございます

滋賀銀行従業員組合
副執行委員長 澤井正



新入行員のみなさん、ご
入行おめでとうございます。
社会生活の第一歩を、大き
な夢と希望を抱いて迎えら
れたことと思います。
私は1965年に入行し、
来年1月に63歳で退職する
ことになり、みなさまに最
後の歓迎の言葉をお贈りい
たします。

合会（地銀連）に加盟しま
した。

「新入行員のお茶くみ当
番をやめさせよう」、「給料
を他行と同じ水準に」、「年
休・生休等が取れるように」
などの要求活動が盛り上が
りました。

1964年頃、銀行は、
従組の弱体化を狙って地銀
連から脱退するよう攻撃を
かけてきました。しかし組
合員の良識は、あらゆる妨
害を跳ね返し、脱退攻撃を
許しませんでした。
そのため、銀行は196

5年11月18日の深夜、一部
の行員を使って滋賀銀行労
働組合（労組）を結成し、
組合を分裂させました。
この年の4月、私は当行
に入行しました。

なぜ従業員組合の 旗を守ったのか

当時、支店長から何回と
なく、従組を脱退するよう
説得されたり、保証人の叔
父から「赤の組合に残って
いる」と言われた母親に泣
きすがられたことは、今で
も忘れられません。さらに
通勤に往復4時間以上かか
る支店へ転勤させられまし
た。
自分に向けられた攻撃と

組合分裂以降銀行と不正
常な状態が続きましたが、
1973年、銀行は組合の
主張した不当差別・職業病
の業務上認定について全面
に認め謝罪しました。
調印式で、当時の廣野頭
取と日根野委員長の握手を
見ながら胸が熱くなったの
を思い浮かべます。

この労使合意によって、
労使対等、法律遵守、人間
尊重の原則に基づいた正常
な労使関係を確立しました。
従組は「要求や提案は、全
従業員の間で」、「資本か
ら独立・対等の話し合いを
重視」、「全国の金融労働者
や地域の仲間と交流し共闘
を重視」を大切にしていま
した。

労働者の権利、平和・民主主義守り 従組の歴史と共に歩む

従業員組合の歴史 私の人生

当行に、滋賀銀行従業員
組合（従組）の前身である
滋賀銀行職員組合が誕生し
た1947年に私は生まれ
ました。
組合が誕生して14年目の
1961年、従組は、当行
の賃金や労働条件の見劣り
が目立つたため、全国の仲
間と交流し共に闘おうと、
全国地方銀行従業員組合連

地域住民に役立つ 銀行を目指す

投機マネーによる物価乱
高下やリーマンブラザーズ
の破綻を契機とした米国型
金融ビジネスモデルの崩壊
による世界的金融危機がお
こり、日本でも非正規労働
者切り捨てという身勝手な
横暴がまかり通っています。
従組は以前から地方銀行

資本から独立した組合の存在こそ 銀行・地域経済を守り発展させる

のあり方について、地元か
ら集めた資金は地元に戻元
身勝手な米国の一國覇権主
義からの転換を主張してき
ました。

今の新鮮な感覚を いつまでも

みなさん、今の新鮮な感
覚で職場や世の中を見続け
てください。食品偽装や不

祥事が続き、多くの企業トッ
プが謝罪していますが、企
業の中に自浄能力があれば
こんな事件は発生しなかつ
たと思います。
自分の意見や考えを言え
ることは、企業にとっても
大切なことであり、資本か
ら独立した組合の役割や期
待が大きくなっています。
来年、退職という節目で
みなさんに訴えたいのです。
道理に基づいたたかう従組
を盛り上げるため、ご協力
ください。そうしてこそ、
銀行や地域、あなたの生活
を守り続けることにつなが
ります。

波紋300号 発行記念寄稿

波紋300号
発行おめでとう
ございます

古田 雅一

銀行の組合分裂攻撃に対
し、各分会では毎日発行の
職場新聞で反撃してきた事
が出発点、当時の朝日新聞

は、各職場新聞は組合員の
権利を守る「紙の弾丸」と
称し大きく報道、職場内外
で影響と波紋を巻き起こし
たことも、ついでこの間のこ
とを思い出されてきます。
そして、各分会の職場新
聞の発展的、総合的なもの
として波紋が創刊された

記憶しています。
今後も波紋は、銀行の社
会的責任と全従業員の生活
改善のため、積極的な役割
を果たすことができます。重
要になっていきます。そのた
めにも機関紙波紋が全従
業員の投稿の場となる様に、
さらなる発展、前進を願っ
ています。

波紋300号の 発行、お祝い 申し上げます

山田 啓一

創刊から4半世紀が過ぎ、
今、改めて縮刷版を見てみ
ますと、継続している、活
動の足跡が記録されている
「波」が広がっていること
が伝わってきます。「すこ
い」ことです。これから
も皆さんの活躍を期待し
ております。

